湊の受難

快楽に溺れる宿泊合宿

快楽に溺れる宿泊合宿

宿泊合宿の日、リュックに着替えを詰め込んだ湊は一年一組のバスに乗り込んだ。

「湊先生はここ」

一番後ろの席に座らされた湊に両横から伸びてきた手が服の上から乳首を弄る。

「うぅ……だめぇ♡」

「嫌がってても身体は正直ですね」

「さぁみんな出発しますよ」

宿泊先までバスは走る、湊は必死に耐えようとするが隣の席の生徒は乳首をカリカリと爪で弄り、尻を撫でまわす。
「ふぅ〜♡ふぅ〜♡もうだめぇ……許してぇ……」
息も絶え絶えに呟く湊だが誰も助けようとしない。
むしろみんな興奮しているようだ。
目的地に到着し、ようやく解放された湊が夜のレクリエーションの準備のために、宿泊先になっている自然の家の隣の森で肝試しの準備をはじめていく。
「みんな喜んでくれるといいなぁ」
夕方には仕込みが終わり、生徒たちが肝試しのために森の前に集まった。